

Are Local Banks Needed for Local Economic Growth? Evidence from Japan's Lost Decade

早稲田大学大学院 大熊 正哲

地域金融機関の破綻は、地元企業の直面する外部資金コストの上昇を通じて、地域の経済成長を長期にわたって抑制する。本稿の目的は、この仮説の妥当性を実証的に検証することにある。本稿の主なファインディングは以下である。金融機関の破綻により、銀行依存的な産業部門ほど、そうでない産業部門に比べて成長が阻害される。さらに地域金融機関の破綻が成長率に与える負の影響は、相対的に所得が低く、あるいは銀行部門のあまり発達していない地域で大きい。本稿ではいくつかの方法によって推計結果の頑健性を検証しており、このような推計結果が逆の因果性 (reverse causality) や過少定式化、あるいは外れ値 (outliers) の影響によってもたらされた可能性は小さいことが示される。以上のような本稿の分析結果は、不完全な資本市場における銀行信用の特殊性を強調する、いわゆる「レンディング・ビュー (lending view)」と整合的である。また地域金融機関と地元企業の長期継続取引関係がエージェンシー・コスト (agency cost) の低下という経済的価値をもつこと、および日本の銀行貸出市場がおおよそ都道府県レベルに分断されていることも同時に示唆される。

JEL Classification Numbers: E44, G21, O16

Keywords: Banking Crisis, Bank Lending Channel, Local Growth